

本を選ぶ

NO.412 2019年(令和1年)9月20日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

<http://www.las2005.com>

本社 〒335-0004 埼玉県蕨市中央 5-20-1 TEL=048-432-3726

- <くろん・ぼわん>レビューの世界
- 紙魚の繰り言 第25回
- 『自然食通信』の創刊から休刊。そして
- 悲しき、品切れと絶版本 ①
- 図書館を離れて (第44回)

●●●●●くろん・ぼわん●●●●●

レビューの世界

エネルギッシュでスピーディーなダンスに心躍る美しい音楽。豪華絢爛なステージときらびやかな衣裳——。めくるめく魅惑の舞台“レビュー”を愛してやまない。

大阪を拠点に活動している女性だけのレビュー劇団「OSK日本歌劇団」の公演を観劇するため、私は祇園祭で熱気溢れる夏の京都へと出かけた。

「OSK日本歌劇団」は大正11(1922)年、歌舞伎や文楽、新派といった演劇興行を手掛けていた松竹が、大阪道頓堀の松竹座の開場に合わせ音楽劇を上演しようと「松竹楽劇部」として結成したことが始まりである。日舞と洋舞の華やかなレビュー『春のおどり』などで人気を博し、宝塚歌劇団、姉妹劇団の松竹歌劇団(SKD)とともに、日本の三大少女歌劇団としてレビュー文化を牽引してきた。名称や経営母体は変遷しているが、劇団員の情熱と多くの支援者の支えにより劇団存続の危機を乗り越え、今年で97周年を迎えている。

少女歌劇の歴史は大正3(1914)年、兵庫県宝塚市のパラダイス劇場で幕を開けた現在の「宝塚歌劇団」から始まる。昭和2(1927)年には日本初のレビュー『モン・パリ』を上演するなど、レビュー時代のさきがけであった。女性だけの劇団はたちまち

評判を呼び、全国各地に少女歌劇の劇団が誕生する。松竹は大阪のOSKに対し、東京を本拠地とした「SKD松竹歌劇団」を昭和3(1928)年に発足。「歌の宝塚、踊りの松竹」などと人気を二分するほど一世を風靡した。大正から昭和にかけて、レビューは全盛期であった。

しかし娯楽の多様化など様々な要因により、徐々にレビューは人気が低迷していく。戦争や自然災害などでひっそりと幕を下ろし、人々の記憶から忘れ去られた少女歌劇も少なくない。

『少女歌劇の光芒 ひとときの夢の跡』(倉橋滋樹・辻則彦著/青弓社/2005年)には、そうした各地の劇団の貴重な資料や写真、元団員ら関係者のインタビューなどが収められている。北海道から九州まで、名前を聞いたこともないような劇団もあり、当時はこんなにも各地で少女歌劇が盛んであったのか、と感慨深い。

平成に入りSKDがレビューの歴史に幕を引き、変わらず大劇場でレビューをみられるのは宝塚だけとなってしまった。一時は衰退してしまったかに見えたレビューだが、OSKが平成16(2004)年、66年ぶりに誕生の地、大阪松竹座で『春のおどり』を復活させる。以来、毎年上演を重ね、平成26(2014)年からは東京の新橋演舞場でも公演を行うなど、うれしい兆しも見えてきた。今後もさらに質の高いダンスや歌で、OSKならではのダイナミックなレビューを上演し続けてほしい。

華麗な絵巻のような“レビュー”の世界を楽しむひとときを、ずっと大切にしたい。(ささきえり)

シロその後

ネコのシロは我が子のチビが亡くなってしまっても、悲嘆にくれた様子もなく外を元気に飛び回っています。ネコは屋内で飼わなくてはいけないというテレビ広告も放送されていることは承知していますが、シロの様子を見ていると、外で自由に遊ばせてやりたいと思ってしまいます。幸い、我が家の敷地はそこそこ広いですし、隣の家の境も生垣ではネコにとっては障壁にもならず、しかもお隣ではネコは飼っていないので、シロにとっては全部が自分の家のようなものです。たとえ、他のネコが現れても、縄張りの余裕はたっぷりとあります。

そのため道路に飛び出すこともなく（わが家に迷い込んだ当初は、道路をわたって美術館の前庭あたりを歩いていたが）、サルスベリの木の下、石灯籠の上や、アジサイなどの植木の枝の陰、あるいは動いていないエアコンの室外機の上など、敷地の中で天候に応じて、自分の気に入った所を居場所に決めて、悠々と暮しています。たまには、スズメ、ネズミ、トカゲ、バッタなどを捕まえて見せにきたりもします。そのうえで、食べてしまいます。それでも外に出てはだめでしょうか？

ただ、1匹になった後のことですが、よそのネコと喧嘩でもしたのか（不妊手術はしています）、シロがノミをもらってしまって、そのノミが我が家の中でも増えてしまい、大変つらい思いをしました。シロ自身も、しばらくの間家の中に入るのを控えていたように感じます。それまで夜は母親の布団の脇で寝ていたものが、すっかり外になってしまいました。ノミをうつしてはいけないと、本能的に感じているのでしょうか？ それにしても、ノミにくわれると、かゆいこと、かゆいこと。しかし、ノミの駆除薬が効果を発揮して、シロにノミがいなくなると、家の中のノミもほとんどいなくなりました。不思議です。

すると、シロも家に入り、母親の布団の脇で寝るようになりましたし、再び母親の膝に乗って体

を預けてくつろぐようにもなりました（シロは家の中に入りたい時には、一声キーと鳴くか、跳び上がって網戸に張り付いて、アピールします）。ただし、家の中の物の配置を忘れていたらしく、慎重に警戒して家の中を歩いています。

それでも、外は外で気持ちいいのでしょうか。今日もトタン屋根に登って、ゆったりと寝ています。カラスに襲われやしないかと、こちらは心配してしまいますが。

ネコの女神 バステト神

さて、エジプト神話のバステト神と大食いネコの系列の北欧の昔話に直接的なつながりがあるわけではありませんが、ネコが象徴しているイメージが似通っている可能性があるということから、もう少し考えておきたいのです。特に、エジプトは人類が初めてリビヤヤマネコを家畜化したと考えられている地です。ということは、ネコという存在について、最も古くから考えをめぐらせていたということでしょう。

参考文献

- ・澤井聖一、近藤雄生『家のネコと野生のネコ』エクスマレッジ／2019

実は、エジプト神話のバステト神については、以前に、主に高校生を対象に、私の好きな本の紹介をした時にネコをテーマとした本として取り上げたのですが、この連載では見事に忘れていました。

まず、波津彬子のマンガ『女神さまと私』（小学館／2009）です。バステト神が20世紀前半のイギリスによみがえるのですが、依代は今にも死にそうだった貧相で小さなネコ（ただし、かわいい）。そのため、パワー不足はまぬがれず、スピリチュアルな力を使うと、その後、体力を消耗して寝てしまう傾向があります。ライラと名付けられたネコは、飼い主のイーディスを巫女として、いつの日か大きな神殿で自らは神としてかきずかれるこ

とを夢見ています。はたして、そんな日は来るのでしょうか？ そもそも合理的な精神の持ち主のイーディスに神として認められるようになるのか、楽しみにしていたのですが、なぜか単行本2巻目で話が終わってしまい、ライラのその後が分からなくて、非常に残念です。

古代エジプトのバステト神は元は下エジプトのブバステイス（ギリシア語。エジプト語ではペル・バステト＝バステトの館）の地方神で、第2王朝（前2890—2686）の頃から信仰されていました。姿も初めは頭が雌ライオンで、性質も猛々しく、ファラオの側にあり、ファラオを守る役割を担っていたのに、他の女神と同一視されて、その神と同じ力や性質を宿すことになり、徐々に変化をとげ、愛情と多産、誕生、豊穰、音楽などを象徴する神となり、格好も右手にシストラムというガラガラのような楽器を持ち、異国風のお洒落な（？）衣装を着るようになりました。特に、第22王朝（前945—715）では、ブバステイスに王都がおかれ、バステト神への信仰がエジプトあげてのものとなりました。ブバステイスにはバステト神の神殿がもうけられ、大きな祭りが催されたといえます。

古代エジプトの人たちは3千年近くも、ネコを崇め、愛していたのです。

このバステト神の多産というところが、安産につながりますし、産みだすもの、母なるものの象徴ということになるのではないのでしょうか？ 一方で、ユング心理学でいう飲み込む存在としてのグレートマザーにもつながります。そこから、死と再生のテーマとのつながりも、想像できます。つまり、大食いネコの系列の話につながるのではないのでしょうか。『女神さまと私』のなかでも、「昼の船・夜の船」のエピソードで、ライラに「妾は誕生と再生の女神」と言わせています。

ただ、北欧神話では、女神フレイヤの乗っている戦車を引くのがネコということになっていますが、母なるものとのつながりは感じられません。なお、それ以外には、ネコの登場するものは見つ

けられませんでした。

参考文献

- ・ステファス・ロッシーニ／リュト・シュマン＝アンテルム『図説エジプトの神々事典』河出書房新社／1997
- ・池上正太『エジプトの神々』新紀元社／2004
- ・池上正太『猫の神話』新紀元社／2013
- ・子猫のへや「古代エジプトと猫」

<https://www.konekono-heya.com/history/egypt.html>
(2019/8/31 確認)

もう一つ紹介しておきたいのが、メアリ・シュトルツ作の『鏡のなかのねこ』（偕成社／1981）です。バステト神の話ではないのですが、古代エジプトの生活が生き生きと描かれ、魅力的なネコが登場します。

母親との折り合いに悩むイリンは学校でもいじめられています。しかし、エジプト人のセティ・ガメルが新入生として現れたことをきっかけに状況が変わりはじめます。ある日、イリンはメトロポリタン博物館でいじめっ子から逃れようとして叫びます。「バステット！ ねこの女王さま！ あたしをたすけて！」イリンは古代エジプトにタイム・スリップをしてしまったのです。そこでも、イリンは母親との折り合いに悩むのですが…。

イリンは古代エジプトで出会ったネコのタシと、現代のニューヨークで再会することができたのでした。

バステト神は誕生と再生の女神なのです。同じように、大食いネコも死と再生を司っています。再生することによって、人は生き直すチャンスを得ることができます。イリンは家族や学校の友人といった人たちとの関係を築きなおす力をバステト神から受け取ったのでしょうか。大食いネコに食べられた人たちは、ネコのお腹から出てくる時に、飲み込まれた時のまま出てきます。まるで、お腹の中で時間が止まっていたかのように。

(さかべ たけし)

『自然食通信』の創刊から休刊。そして

横山 豊子

ひとりで出版社をおこし、気がつけば39年。

「手持ちの資金はないが、ダメモト」と、区に融資の相談に行ったら数日後、担当の女性二人が自宅を訪問、「女性に事業資金を融資する先例に」と、100万円の融資決定。（※現在は500万円）

軍資金はこれのみ。古い木造アパートの一室の契約金と、96頁3000部のミニコミの制作費は賄える。翌1981年6月、そのまま社名にもなった隔月刊雑誌『自然食通信』を創刊しました。

敗戦後の焦土から高度経済成長へと奇跡の復興を遂げたと言われた1960年代から70年代。その陰では農村で頻発していた農薬中毒事故や、食べる側からは野菜に残留する農薬への疑念、全国の工業地帯で排出される大量の有害物質のため工場で働く労働者や住民の健康被害、広がる環境汚染などの問題が連日、新聞・テレビなどメディアで大きく報道されていました。

妊娠中の後輩と助っ人の夫ともども印刷入稿前の追い込み作業に入った頃に、全国紙が「情報誌『自然食通信』創刊！」と小さな記事を掲載、それを追ってNHKラジオで15分のインタビューが放送されると、電話と手紙・葉書に加え現金書留まで届き始め、あっという間にダンボール箱2つが満杯に。そうした反響に後押しされ、好スタートを切ることができました。

「自然な食べ物 自然な暮らし」をテーマとした創刊号の特集は「無農薬野菜を食べる人が増えている」。高まる健康不安に、産業優先の国の対応は鈍く、各地で自然発生的に農家と、子どもたちの命を守らなくてはと危機感を強める家庭の主婦たちが行動を起こした産直共同購入運動の活気溢れる姿を取材しています。

これにはすぐに読者から「農薬を使う、使わないで農家を分断するのか」と厳しい指摘が届き、編集部も共に考えたくて、次号で掲載することに。

これをきっかけに〈情報交差点〉と名づけた意見交換の場には「農薬・科学肥料を使わない百姓にな

りたい」「八百屋始めた」「ドキュメンタリー映画上映会」など多彩な情報が寄せられて全体の1/3にもページは拡大、読者参加型の個性を持つ雑誌の顔のひとつに成長していきました。

「豆腐」から始まった連載「手づくりのすすめ」も人気が高く、6年後に単行本化したものも今日まで通算38刷を数える心強い現役です。

「アトピーで苦しむ孫・子どもに無農薬・無添加のものが欲しい」という多数の問い合わせには、「アトピーって何？」と子育て中家族の食卓で起こっている変事に衝撃を受け、じっくり取材を重ねて39号からの「アレルギーと食べもの」の連載へ結実しました。

成長する雑誌を作るのは張り合いがありました。が、「安全な食べ物はどこに」と雑誌に「ハウツー」を期待していた人たちは離れていき、部数はしだいに減少、経営も苦しくなっていました。

全国各地の読者からの地域の暮らしに密着した情報や、地方文化の血が通う取材原稿をいただいたりと、濃密な地域発信が詰まった『自然食通信』も赤字経営の苦しさに体力気力耐えきれず、1996年いっぱい休刊に。

休刊直前の10月にこちらも創刊時からの連載企画から生まれた単行本『自家製天然酵母のパンづくり』は、日本の天然酵母パンブームを牽引していきました。台所にある身近な人参・ジャガイモ他の野菜や果物を発酵させた自家製酵母と小麦粉と塩だけでパンが作れることが読者の興味に火をつけ、号を追うごとに「レーズンは失敗しない!」「りんごの皮でも!」と誌上で濃密な情報交流を図りつつ進化を重ね、しばらくは他の追随を許さない単行本を支えた土壌となったのは確かです。

先日、雑誌をぜひ自分たちに復刊させてもらいたいと、若い女性たちが事務所を訪れ、熱心に話していかれましたが、思いがけない事態勃発です。さてその先はどうなりますことやら。

(よこやま とよこ:自然食通信社)

悲しき、品切れと絶版本 ①

溝上 牧子

あなたは欲しい本が手に入らなかった経験はないだろうか？ 本は出版されたら一生、流通し続けられるわけではない。誰かの手許に生涯残ることがあっても、書店でずっと並べられ、定番タイトルになれる本は、数ある本のなかでもほんの僅かだ。では定番タイトルとは？ 文字通り、現在も読まれている本。すぐタイトルが浮ぶような多くの人を知る本。古い時代の人が書いた文学や文献等でも、今も一定の新しい読者を持ち、本が買われ続けることがそれにあたるだろうか。では本が流通し続けていける基準はどこにあるか。出版社によっても考え方は違ってくるが、大きくは年間に何冊売れるかで判断するところが多いのではないだろうか。長生きする本は、時代を追わない、流行物ではない本が多い。児童書はその意味でも普遍的なテーマを扱ったものが多く、自分が読んでいたものを自分の子どもにもと、選ぶケースも多い。そんな本は一時的なベストセラーではなくロングセラーとして長く読み継がれ、刷数を重ね、奥付に3桁の刷数を見る本も少なくない。とはいえ児童書なら必ず売れ続けるわけでもなく、ロングセラーになるものも、その中の一部に過ぎない。

『子どもと読書』編集部の2018年の児童書新刊出版点数調査表によると2018年には児童書が3333冊出版されている。その中で重版に至る本は半分もいかないのではないだろうか。もっと少ない可能性だってある。朔北社で現在稼働している本の中では絵本45冊中20冊、児童書読み物27冊中9冊、一般書（各ジャンル合算）34冊中4冊が重版がかかったことのある本だ。その中には初版のあと1回だけの重版という本も含まれる。定期的に重版がかかるのは33冊中9冊程度だ。新刊が並べられ動きがない本は次第に本屋の店先から消えてしまう。そういう本は重版されない可能性が高い。ロングセラーになりやすい子どもの本であっても初版を売り切るのに長い時間かかる場合もあるし、そこまで到達しないうちに海外の契約期間到来というタイムリミットを迎えてしまう本もあ

る。出来ればそうならないようにしたいが、避けて通れない絶版の壁。海外との契約は年数がキツキツと5～10年を限度として区切られており、それを超えて販売継続したければ別途更新料を払う必要がある。売れている本は迷いなく更新、支払の運びになるが、売れていないと、契約期限到来が恐怖に変わる。思い入れのある本でも、売れていない本に対して更にお金をかけることは難しい。会社は商売だから、余裕がなければ再契約をあきらめざる得ない。大切な本がそんな経過をたどる時、胸が締め付けられるような気分になる。

売れない本は全て絶版か？ それもまた違うのだが、その中でも何を遺していくか選択することは本を出版する時と同様に会社の在り方や、考えの方向性をも反映している気がする。一冊ずつは、一見ばらばらに見えるかも知れないけれど、そこには会社の人たちの考えが色濃く反映されているはずだ。人が本を作る。だから、著者だけでなく、関わった全ての人たちの何かがやはり出来上がった本に詰まっている気がする。本を売るというのは単に消耗品を売るというのとも違う。それぞれの考えを、思いを売るといふ感じに近いかもしれない。

売れるものだけを残したら売上や効率もよくなるかと思うかもしれないが、実は違う。よく売れるものがあり、時々売れるもの、年に一度売れるものそれぞれが互いを生かし合っているように思う。本屋も、おそらく売れ筋だけでは、目を引く棚にはならない。もしもドラえもんが実在してポケットから「簡単コピーマシン！」と言いながら少部数を安く刷れる秘密兵器でも出してくれたら品切れや絶版もなくなるかもしれない。だがドラえもんはいない。これからも、絶版と品切の葛藤はなくならないだろう。好きな本を遺していく為に個人が出来る事は、その本を買うという事とその本を好きそうな人にそっとその存在を教えるあげてくれないのかなあ。

(みぞかみ まきこ：朔北社)

図書館を離れて (第44回)

—戦前の「図書館員」②—

並木 せつ子

引き続き、「図書館員」に関する新聞記事から、戦前の図書館員がどのように新聞にとりあげられていたか垣間みてみたい。

見出しを原文のまま古い順に並べ、／の後は記事の要約を記した。教習所等名称は種々使用されているが新聞記載のままとした。

1926 (大15) 年 4 月 本年卒業の婦人図書館員；興津寿江さん／「上野の帝国図書館内にある文部省直轄図書館講習所を今年卒業した年若いライブレリアン」の中の1人である興津さんを取材。図書館員を希望した理由は「おちついた着実な仕事」で「発達の見込ある職業」と思うので、「両親や先輩のすゝめる儘にそれを志願」したという。興津さんの顔写真が掲載されている。

1926 (大15) 年 8 月 今一つの職業婦人；ローザンゼルス図書館に働くミラー嬢／「米国では図書館と云へば殆ど女性独占の職業でもあるかの様な有様」と紹介。高く積み上げた本を持って働くミラーさんの写真が掲載されている。

1926 (大15) 年 11 月 図書館員の資格を検定で付与；番人扱ひは大間違ひと…／地方では資格のある館員は少なく書庫の番人くらいに考えられているが、図書館員は図書館の基礎をなす大事な役目を持っている。文部当局もその必要性を感じ、図書館養成所の他に図書館員検定制度を設けるべく計画之中である。

1927 (昭2) 年 3 月 女図書館員は真ッ平御免と；養成所来年より女人禁制…／図書館養成所は既に十数名の女の卒業生を出しているが「女の館員は想像力に乏しくそれにおめかしにのみ浮き身をやつし」ていて近頃評判が悪い。文部省は「来年からは女の入学を許さぬ方針である」と。

1927 (昭2) 年 4 月 婦人図書館員を可愛って下さい／アメリカの婦人図書館員の活動は素晴らしく日本婦人は足元にも及ばない、近頃日本の婦人図書館員の評判が悪いということだが、やっと最近芽を出したばかりの職業なので温かく盛り立ててほしい、とは最近帰朝した帝国図書館長の談。

1928 (昭3) 年 3 月 学校を出た女の職業案内；長き特殊の修行を要せぬもの／看護婦、産婆、タイピスト、速記者、自動車車掌、電話交換手などとともに図書館員の名が挙がっている。初任給は50円程度で比較的高いほうである。

1929 (昭4) 年 4 月 古手の教員を採用せず図書館学校を新設；卒業生には司書の型書を与え…／図書館事業には「図書館職員養成所卒業生並に教員上りの古手をもって」あててきたが、図書館設置計画が5000を突破したので、来年、男女共学、修業年限2年の高等専門学校である図書館学校を創設するとともに、検定制度を設け合格者に司書の資格を与える計画である。

1929 (昭4) 年 8 月 女にふさわしく高尚でもある婦人司書；初任給で五十円位／婦人欄に掲載された記事。婦人司書は「書物を相手の仕事ですから…気品もあれば高尚でもあり…職業としては女子に最も適当」であり、「候補生期間を辛抱さへすれば正式に司書になり…結婚後も勤めさへ欠かさなければ前途有望の職業です」と奨励。日比谷図書館で働く婦人司書の写真を載せている。

1930 (昭5) 年 1 月 男女共学で開く図書館学校；二カ年修行で直ちに司書 明後年から上野で開校／文部省は図書館令を改正し県立図書館の設置を義務づけることとなった。そこで司書養成のため、官立図書館学校創設を計画している。卒業生には司書の肩書と判任官の待遇を与える。

1930 (昭5) 年 2 月 教育機関に生れ変わる図書館；館令を改め大改革「司書」の検定制度も設く／近頃は入学難、就職難から大学入学を断念する人が増えたため、大衆教育が重視されるようになった。そこで図書館の機能を発揮できるよう図書館令の改正を検討。改正案の要点は、検定制度を設けて合格者に司書の資格を与える、養成所を昇格して修業年限2年の図書館学校とする、など6項目。

1932 (昭7) 年 3 月 女子図書館員；講習生募集中です／図書館員講習所の入学募集。女学校卒業程度、

試験科目は国語、地理、歴史、英語の4科目、募集人員30名、修業年限1年。

※筆者註：共学なのに見出しも入学資格も女性向けに書かれている。入学試験が実施されるようになった。

1932（昭7）年6月 図書館令を改め館員を優遇／図書館令改正について、昨年から立案に着手していたが、9月には公布の予定。骨子は府県立図書館の強制設置、司書の検定試験制度を設ける、館長は専任、司書は高等官待遇に昇格などである。※筆者註：改正案に出ていた修業年限2年の図書館学校設置はいつのまにか立ち消えになっている。

1934（昭9）年3月 誉の紅一点…成績抜群の小林讓／今年の図書館員養成所の卒業生は28名（うち5名は女）であるが、東大や京大などを出た文学士

などもいる中で、女学校出で優秀な成績を勝ち得たのが小林花子さん。文部当局もその秀才ぶりに驚いている。「図書館の発展のために一生をささげたいと思てゐます」と語る小林さんの顔写真が掲載されている。

1934（昭9）年3月 「港の話」（コラム欄）／図書館養成所の入学志願者は、30名の定員に248名の出願者という大盛況。「元来、当養成所は新進気鋭の士…を採る社会政策的方針である」にもかかわらず、志願者の中に待命になったばかりの西垣新七と諸沢常三という2人の将校がいた。ともに50歳。「一応、願書は受けつけたがサテこれをどうするか、目下協議中である」とのこと。（つづく）

（なみき せつこ：元図書館員）